

さえき病院 通りハ通信

★4月になりました。春の花が咲き始めました。

気温の差が大きいので体調管理に気をつけましょう。

水分補給と睡眠をしっかりととりましょう。

生協さえき病院 職員一同

4月から来られました岡田浩佑先生です。よろしくお願いいたします。

広島大学医学部の卒業生は約5800名いると思います。それぞれ違ったキャリアがあると思います。私のキャリアは、やはり独特で、生まれ育ったところは、日本の旧植民地満州（現在、中国の東北地区）の大連です。ここに14歳まで過ごしました。中華人民共和国が成立し、朝鮮戦争が始まり抑留されていた鉄道マンの父たち日本人は、西北奥地でロシアのカザフスタンに通じる鉄道建設に従事するため、家族と共に移動しました。半沙漠の雨の少ない黄河の上流、緑のないハゲ山ばかりのところ、1ヶ月に1回しか入浴できないような環境で、日本でいえば500年前の毛利元就時代のように、ワラジを履く生活を経験しました。中学3年から高校2年の3年間、日本語の読み書きの全くない中国人の鉄道学校の全寮生活を送りました。昭和28年、敗戦後8年して帰国出来ました。

医学生時代から63歳で医学部保健学科を定年退官するまで、岡山県津山でインターン、米国癌部門に2回留学以外は、ずっと広島大学の霞キャンパスで過ごしました。原爆放射能医学研究所の被爆内科からスタートして、白血病、悪性リンパ腫など血液がんの診療、輸血、骨髄移植など広島地区に定着させることが役割でしたが、現役時代一人の白血病患者の命を救うことができず、コメディカルの教育に約15年以上従事した後、被爆者の特養の診療所長を6年務めました。「枕もとでハーモニカを吹こう会」を立ち上げて自称会長とっております。

